

短期目標に対する取組の進捗及び今後の課題

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク形成の目標

- 2021年1月に策定した「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク全体構想」では、長期、中期、短期の目標を設定している。

長期目標 ～2050年	
◇徳島県でコウノトリ・ツル類がくらしていることが日常の光景となり、これらが舞い降りる川や田んぼは、カエル・魚・虫などの生物多様性が豊かで、良好な水辺の景観が広がる場所となっている。 ◇川と里での生態系ネットワークの取組が、山や海へ広がり、各地域特有の自然資源や歴史・文化・伝統を最大限に守り活かした産業が営まれている。 ◇地域に住み、働き、訪れる人々が、自然とのつながり・人とのつながりを実感できる、徳島県独自の魅力的で持続性のある地域づくりが展開されている。	
生息環境づくり	地域・人づくり
【コウノトリ】 徳島県内の河川流域でコウノトリが繁殖・定着し、年間を通じた身近な存在となっている。堤内・堤外が一体となった生態系ネットワークの形成が達成されている。 【ツル類】 冬の訪れと共にナベヅル・マナヅルの群れが飛来し、徳島県内の河川の流域で越冬する姿が見られる。堤内・堤外が一体となった生態系ネットワークの形成が達成され、国内における安定した新越冬地になっている。	○コウノトリ・ツル類を指標とした徳島県内の生態系ネットワークの形成が、国内のみならず国際的にも注目されるようになり、ブランド農産物や訪日観光客を通じて地域経済や地域活力を担う有力な資源となっている。 ○コウノトリ・ツル類の存在を地域の新たな誇りとし、その生息環境の保全・再生・管理が地域の多様な主体による連携と協働で持続的に進められ、人々はその結果として様々な自然の恵み（生態系サービス）を享受できるようになっている。
中期目標 ～2030年	
生息環境づくり	地域・人づくり
【コウノトリ】 吉野川流域で、3～5ペアのコウノトリが繁殖し、安定した生息地となっている。那賀川・勝浦川流域周辺でも、コウノトリが繁殖している。また、徳島県内の他地域においても、採食環境と営巣環境の保全整備が進められている。 【ツル類】 徳島県内へのツル類の渡来、越冬が続いている。吉野川、那賀川、海部川等の河川区域及び周辺地域で、ねぐら環境、採食環境の保全整備、人の利用の調整が継続して行われている。また、徳島県内の他地域においても、ねぐら環境、採食環境の保全整備が進められている。	○徳島県内の各地で関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類との共生に資する農産物やその加工品のブランド化が行われ、国内外への流通・販売が展開されて、経済効果を上げている。 ○徳島県内の各地で関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類を活かした観光が行われ、経済効果を上げている。 ○多様な主体の連携・協働の取組と地域間の交流がさらに拡大している。コウノトリ・ツル類との共生に取り組む徳島県や各地域の地域イメージが向上し、地域の関係人口が増えている。
短期目標 ～2025年	
生息環境づくり	地域・人づくり
【コウノトリ】 吉野川流域で、採食環境と営巣環境の保全整備が継続して行われ、複数ペアのコウノトリが繁殖している。また、那賀川・勝浦川流域周辺でも、採食環境と営巣環境の保全整備が進められている。 【ツル類】 ツル類の安定したねぐら環境の確保に向けて、吉野川、那賀川、海部川等の河川区域での砂州や干潟の保全・再生及び人の利用の調整、周辺の農地での冬期湛水やため池の冬期の水位調整等が進められている。河川の周辺地域で、採食環境の保全整備が進められている。	○先行取組地域の農業関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類との共生に資する農産物やその加工品を認証する制度が拡充されている。 ○先行取組地域の観光関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類を活かした観光に向けた受け入れ体制や施設整備が促進されている。 ○コウノトリ・ツル類が各地域で受け入れられ、多様な主体の連携・協働の取組と地域間の交流が行われている。また、2025年大阪・関西万博等の機会を通して、コウノトリ・ツル類と共生する取組がアピールされ、徳島県や先行取組地域の認知度が上がっている。

取組の進捗（2020～2024年度）

- 徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワークの短期目標（～2025年）の達成に向けて、協議会やワーキングにおいて情報共有・意見交換を行い、生態系ネットワーク形成の検討を進めてきた。また、各地域において、自治体や団体、企業、学校等が連携を図りながら、取組が実践されてきた。

						短期目標達成年
協議会・地域ワーキング						
	2020年度 （令和2年度）	2021年度 （令和3年度）	2022年度 （令和4年度）	2023年度 （令和5年度）	2024年度 （令和6年度）	2025年度 （令和7年度）
徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会	協議会の開催					
	協議会の発展移行					
地域ワーキング						
鳴門地区生息環境づくりワーキング （設置日：2018年11月27日）				2023年1月10日解散		
旧吉野川津慈地区管理運営あり方検討ワーキング （設置日：2023年6月6日）				2023年11月16日～休止		
旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング （設置日：2024年1月31日）				ワーキングの開催		
鳴門地区地域・人づくりワーキング （設置日：2019年9月30日）	ワーキングの開催					

取組の進捗（2020～2024年度）

コウノトリの生息環境づくり

- 「コウノトリの採食環境の保全・創出」「コウノトリの営巣環境の保全・創出」「コウノトリへの人による悪影響の緩和」の取組が継続的に進められてきた。徳島県内で多数のコウノトリの飛来が確認されるようになっている。吉野川流域で、2017年から1ペアが継続して繁殖に成功しているが、複数ペアのコウノトリの繁殖には至っていない。

主な取組例

コウノトリの採食環境の保全・創出

【徳島河川国道事務所】

- ◇旧吉野川での自然再生の検討・整備

【地域の農業者】

- ◇農薬や化学肥料の使用量を減らしたコメやレンコンの栽培 [鳴門市内]

【とくしまコウノトリ基金等の地域の団体、農業者や住民】

- ◇耕作放棄地を活用した湿地ビオトープの整備 [鳴門市内]
※整備された湿地ビオトープ 2018年 0.2ha → 2024年 約5ha
- ◇農業者や住民によるビオトープ整備 [鳴門市内]

コウノトリの営巣環境の保全・創出

【徳島県】

- ◇徳島県がコウノトリ（鳴門板東ペア）の営巣している電柱を四国電力から買い取り、巣塔として管理

【とくしまコウノトリ基金】

- ◇コウノトリの巣の下植生管理

コウノトリへの人による悪影響の緩和

【徳島県】

- ◇鳥獣保護区の指定 [鳴門市大麻地区の営巣地周辺]

【鳴門市】

- ◇観察者用の駐車場、観察スペースの設置 [鳴門市大麻町の営巣地周辺]
- ◇立ち入り自粛を求める看板の設置 [鳴門市大麻町の営巣地周辺]

コウノトリの足環装着・負傷個体への対応

【徳島県、とくしま動物園 等】

- ◇コウノトリへの足環装着、健康診断
- ◇コウノトリの救護センターを設置し、負傷個体の収容、救護



これまでの主な取組の実施地域

「国土数値情報(行政区画データ)、(河川ラインデータ)」(国土交通省)(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>)をもとに作成



耕作放棄地を活用した湿地ビオトープ(鳴門市大麻町)
[写真提供: 認定NPO法人とくしまコウノトリ基金]

取組の進捗（2020～2024年度）

ツル類の生息環境づくり

- 「ツル類の採食環境の保全・創出」「ツル類のねぐら環境の保全・創出」「ツル類への人による悪影響の緩和」の取組が継続的に進められてきた。徳島県内へツル類が飛来し越冬が確認された年もあるが、安定したツル類の越冬には至っていない。

主な取組例

ツル類の採食環境の保全・創出

【徳島県】

- ◇多面的機能支払交付金の徳島県独自の指針として「活動組織間で連携し大型の鳥類（ツル・コウノトリ）を保護する取り組み」を設定

【太田川土地改良区】

- ◇刈り取り時期の調整による二番穂の刈り残し〔阿南市・小松島市〕
※農林水産省の多面的機能支払交付金を活用

ツル類のねぐら環境の保全・創出

【徳島河川国道事務所】

- ◇樹木伐採等によるレキ河原の保全・再生

【那賀川河川事務所】

- ◇河床掘削による浅瀬の整備

ツル類への人による悪影響の緩和

【徳島河川国道事務所】

- ◇吉野川の河川敷でのツル類への配慮を促す看板の設置

【那賀川河川事務所】

- ◇那賀川の河川敷でのツル類への配慮を促す看板の設置



これまでの主な取組地域

「国土数値情報(行政区域データ)、(河川ラインデータ)」(国土交通省)(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>)をもとに作成



二番穂の刈り残し

取組の進捗（2020～2024年度）

地域・人づくり

- 「農業振興」「観光振興」「理解と関心の醸成」「資金の調達」の取組が継続的に進められてきた。コウノトリ関連の商品の開発、観光の受け入れ体制の構築、教育機関との連携、地域間の交流等に進展があった。

主な取組例

農業振興

【鳴門市】

◇2017年8月より「鳴門市コウノトリブランド認証制度」の運用を開始。2021年度に商標登録の追加出願を行い、調味料と清酒を登録

【とくしまコウノトリ基金 等】

◇コウノトリおもてなしれんこんのPRのため、日本野菜ソムリエ協会と連携したイベントの開催や雑誌「めぐる、」へのPR記事の掲載

◇れんこん販促キャンペーンとして、徳島県産れんこん味わいフェアを開催

◇関東圏でコウノトリおもてなしれんこんを販売

◇コウノトリの営巣地周辺で、農業者の協力を得て、ビオトープ米でお酒をつくるプロジェクトを実施。プロジェクトで生産された米、日本酒、味噌を販売（本家松浦酒造場との連携）

◇せとうちマルシェ2024（主催：JB本四高速グループ）でのコウノトリ応援商品の情報発信

【アオアヲナルトリゾート】

◇ホテル内のレストランでの、コウノトリのお米「朝と夕」の提供

観光振興

【鳴門地区地域・人づくりワーキング】

◇受け入れ体制の構築に向け、コウノトリ・ツル類を活かした観光におけるルールやガイドブック「あわのくにコウノトリHANDBOOK」を作成

◇ガイドブック「あわのくにコウノトリHANDBOOK」を観光関係の施設に配布

【とくしまコウノトリ基金 等】

◇コウノトリ生息地でのエコツアーの試行

◇板東南ふれあいセンターに、コウノトリの巣の映像をリアルタイムで配信するモニターを設置

【ツーリズム徳島、NPO法人川塾 等】

◇コウノトリの営巣地周辺でのハイキング、カヌーツーリングなどのツアーの実施

【アオアヲナルトリゾート】

◇SDGs コウノトリ応援 宿泊プランを販売

◇宿泊者を対象とした「コウノトリれんこん掘り体験」の実施



ビオトープ米でお酒をつくるプロジェクト
[写真提供：認定NPO法人とくしまコウノトリ基金]



関東圏でのコウノトリれんこんの販売
[写真提供：認定NPO法人とくしまコウノトリ基金]



板東南ふれあいセンターへのモニター設置
[写真提供：認定NPO法人とくしまコウノトリ基金]

取組の進捗（2020～2024年度）

地域・人づくり

主な取組例

理解と関心の醸成

【鳴門地区地域・人づくりワーキング】

- ◇コウノトリの普及啓発パネル及び動画の作成
- ◇ツル類の普及啓発パネルを作成

【徳島河川国道事務所、とくしまコウノトリ基金 等】

- ◇コウノトリの普及啓発パネルの施設・イベントでの展示

【JR四国】

- ◇池谷駅・板東駅の駅舎へのコウノトリの普及啓発ポスターの掲示

【とくしまコウノトリ基金 等】

- ◇イベント「ナベツルのデコイづくり」の実施（島田島活性化プロジェクトと連携）
- ◇鳴門市堀江北小学校でのコウノトリをテーマとした授業、栃木県小山市の小学校との交流授業の実施
- ◇鳴門市板東小学校での地球温暖化とコウノトリをテーマとした環境学習、れんこん掘り体験の実施（徳島県、一般社団法人地球温暖化防止全国ネット、徳島県地球温暖化防止活動推進センター、一般社団法人とくしまCSA風土と連携）

資金の調達

【鳴門市】

- ◇ふるさと納税寄付金のコウノトリのビオトープ整備事業などへの活用

【とくしまコウノトリ基金 等】

- ◇コウノトリ応援商品の販売金額の一部がコウノトリを守る取組に寄付される仕組みの構築
- ◇直売所内にとくしまコウノトリ基金コーナーの設置（本家松浦酒造場と連携）
- ◇ホテル内の自動販売機の売り上げの一部の寄付（アオアヲナルトリゾートと連携）

【太田川土地改良区】

- ◇農林水産省の多面的機能支払交付金を活用して、二番穂の刈り残しを実施



イベント「ナベツルのデコイづくり」



鳴門市板東小学校での環境学習

[写真提供：認定NPO法人とくしまコウノトリ基金]



寄付付き自動販売機

[画像提供：認定NPO法人とくしまコウノトリ基金]

現状と課題、2025年度の取組（案）

生息環境づくり

- 生息環境づくりの取組状況を踏まえ、短期目標の達成に向けた2025年度の取組（案）を示した。コウノトリの採食環境・営巣環境の保全・再生の取組、ツル類のねぐら環境・採食環境の保全・再生の取組、人の利用の調整をさらに推進していくことが必要である。

短期目標（～2025年）	現状と課題	2025年度の取組（案）
<u>コウノトリ</u> 吉野川流域で、採食環境と営巣環境の保全整備が継続して行われ、複数ペアのコウノトリが繁殖している。また、那賀川・勝浦川流域周辺でも、採食環境と営巣環境の保全整備が進められている。	・徳島県内でのコウノトリの確認数は増えている。吉野川流域で、2017年から1ペアが継続して繁殖に成功しているが、複数ペアのコウノトリの繁殖には至っていない。 ・2024年7月にコウノトリの巣へ照明が照射される事案があった。 ・徳島県内でのコウノトリの生息環境づくりの取組を継続・拡大することが必要である。	・旧吉野川での自然再生の検討・推進 ・鳴門市大麻地区のコウノトリ営巣地周辺での湿地ビオトープの整備・維持管理、立ち入り制限及びルールやマナーの周知の継続 ・鳴門市島田島での湿地ビオトープの整備・維持管理の継続 ・吉野川流域の他地域への展開の検討 ・那賀川流域での取組の展開の検討
<u>ツル類</u> ツル類の安定したねぐら環境の確保に向けて、吉野川、那賀川、海部川等の河川区域での砂州や干潟の保全・再生及び人の利用の調整、周辺の農地での冬期湛水やため池の冬期の水位調整等が進められている。河川の周辺地域で、採食環境の保全整備が進められている。	・徳島県内へツル類が飛来し越冬が確認された年もあるが、安定したツル類の越冬には至っていない。 ・徳島県内でのツル類の生息環境づくりの取組を継続・拡大することが必要である。	・吉野川での砂州や干潟の保全・再生、人の利用の調整の継続 ・太田川流域での採食環境の保全整備の継続 ・那賀川流域での取組の展開の検討

現状と課題、2025年度の取組（案）

地域・人づくり

- 地域・人づくりの取組状況を踏まえ、短期目標の達成に向けた2025年度の取組（案）を示した。各主体が連携・協働して、コウノトリ・ツル類を活かした農業や観光業、環境教育、地域間の交流等の地域・人づくりの取組をさらに推進していくことが必要である。

短期目標（～2025年）	現状と課題	2025年度の取組（案）
○先行取組地域の農業関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類との共生に資する農産物やその加工品を認証する制度が拡充されている。	・「鳴門市コウノトリブランド認証制度」で、商標登録の追加が行われた。 ・コウノトリとの共生に資する農産物や加工品の生産、販売が進められている。関連商品の開発の促進、商品の認知度の向上が必要である。	・農林水産省の生物多様性保全の取組に関する施策の動向も注視し、コウノトリに関連する商品の情報発信の検討
○先行取組地域の観光関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類を活かした観光に向けた受け入れ体制や施設整備が促進されている	・観光関連施設へのガイドブックの配布などにより理解促進が図られている。 ・板東南ふれあいセンターへ、コウノトリの巣の映像をリアルタイムで配信するモニターが設置された。 ・コウノトリをテーマとした観光プログラムや宿泊プランが造成された。商品の認知度の向上が必要である。	・観光関係者とのルール等の情報共有 ・コウノトリに関連する観光商品の情報発信の検討
○コウノトリ・ツル類が各地域で受け入れられ、多様な主体の連携・協働の取組と地域間の交流が行われている。また、2025年大阪・関西万博等の機会を通して、コウノトリ・ツル類と共生する取組がアピールされ、徳島県や先行取組地域の認知度が上がっている。	・鳴門市では市民にコウノトリが受け入れられ、多様な主体の連携・協働の取組が進んでいる。 ・鳴門市の学校での環境学習や地域間の交流が行われている。 ・徳島県内にツル類が飛来することが一般には知られておらず、興味・関心を高める必要がある。 ・徳島県外での認知度は低い状態にあり、さらなる情報発信が必要である。	・徳島県内でのコウノトリ・ツル類に関する普及啓発・情報発信の継続 ・教育機関との連携、地域間交流の継続 ・2025年大阪・関西万博に合わせて徳島県内へ来訪する外国人旅行者等への普及啓発・情報発信の実施 ・2025年7月に小松島市で開催予定の「第7回生物の多様性を育む農業国際会議」での情報発信の実施